

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和 5年 1月 26日

公表: 令和 5年 1月 26日

事業所名 こどもプラス日岡教室

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	<input type="radio"/>			
	2	職員の配置数は適切である	<input type="radio"/>		運動療育中は送迎職員も揃っているため、配置は日常的に4~5人はいる。	受け入れ時のみ、待機職員に対し児童が複数人になる時がある。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	<input type="radio"/>			
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	<input type="radio"/>			
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	<input type="radio"/>		私たち事業所の良い点悪い点をチームで改善し、子供達が楽しく過ごせる環境を常に意識しています。	保護者様の意向が子供達の支援に繋がるので事業所として素直なご意見も承りたく思っております。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	<input type="radio"/>			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		<input type="radio"/>		外部評価は今後必要性も高く、導入を検討中。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	<input type="radio"/>		研修は職員のモチベーションを維持する大切なツールです。	
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	<input type="radio"/>		職員からの提案や支援の不安があった場合は、直結した内容の研修を全体で行っています。	

適切な支援の提供	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		プログラムは年間、月間、週間、長期休暇で組み直しています。	主に運動療育のため、それぞれの特性をもつ子供達に迅速に合わせるようにチームで動いています。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		プログラムは年間、月間、週間、長期休暇で組み直しています。	主に運動療育のため、それぞれの特性をもつ子供達に迅速に合わせるようにチームで動いています。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		モニタリングや送迎時の保護者様とのお話で、支援内容を考え直すこともあります。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		朝のミーティングや、昼の送迎前の情報共有や確認は積極的に職員間でしている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		緊急事項は連絡を入れている、朝のミーティングや、昼の送迎前の情報共有や確認は積極的に職員間でしている。	終業後は全員が揃わないため難しい。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			モニタリングをしていると、こどもの「いま」が浮き出ています、「いま」を整える判断をすることも実際の支援に繋がります。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	○		同じ方向性を取る枠組みの中で、ガイドラインの中のテーマに沿い、職員研修で理解を深めてもらっています。		

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		学年が変わる年度初めに職員の一覧と送迎車の確認が出来る案内をお渡ししています。	職員は学校の先生としっかりと共有をしています、そのため、調整などしやすい環境にあります。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○		今現在在籍されていませんが、提携医の先生にとっても支えていただいています。	医療ケアが必要な後利用者様が入った場合は連携をしていきたいです。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		前に在籍されていた関係機関とは、しっかりと情報共有出来る関係を保っています。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○			最高学年が高校2年生なので、障がい福祉事業所に情報共有する事前準備など、子供部会等で勉強していきます。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		名古屋市子供福祉課や合同部会の研修を職員は受けられる環境を作っています。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○			コロナ禍なので、外部との積極的な関わりは今はしていません。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		協議会からの情報はとても参考になるので参加しています。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		その日の事はその日のうちに対応する事を目指して支援して行きます。	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		保護者様とは送迎時にお互いの情報共有や問題行動に対する対処など、話をさせていただいています。	ペアレントトレーニングは今現在は受講半ばのため、実施はしていません。	

保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている		○	長いお付き合いの保護者様が多いので、変えることなく誤解のないように説明機会を作り、お伝えします。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		日々の様子など、変化を職員全体で見過ごすことなく共有しています。	子育ての悩み全てが迅速には対応しているわけではないですが、職員全体で寄り添う方向性です。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		少人数での父母会を居住地域別に検討中。	同じ小学校に通う児童が殆どいないため、他校児との父母会は難しい、コロナ禍のため、集まる事は控えています。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		こどもプラス本社より、月1回機関紙が来るため、契約者様に配布出来ている。	
	35	個人情報に十分注意している	○			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		LINEやお手紙等で確認をし、チェックシートで漏れの無いように目で確認しています。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○			行事全般自粛なので、活発には動けていませんが、年中行事はささやかに進んでいます。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		行政書士の先生も交えて職員が積極的に知る機会を増やして行っています。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		児童虐待の定義など四分類あるので、理解しやすくするために、丁寧に職員と共有しています。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○			
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			面談児、アレルギーに関しては重点を置き、聴取りをしていますが、指示書までは至っていません。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		全体ミーティングを月に1回程度し、事例検討をしています。	